

佐世保市地域公共交通網形成計画進捗状況

赤字・・・今回報告する項目
ゴシック体・・・協議会による活動関連

アクションプラン対象
◎: 28年度以降に事業実施
●: 31年3月末新体制移行を目指した協議の中で案を作成
長期: 32年度以降

基本方針	施策進捗状況(平成28年度～)		AP 対象
(1) まちづくりの軸となる利便性の高い公共交通ネットワークを形成する	① 幹線・支線ネットワークの構築	i) バス路線の幹線・支線の仕分け・サービス基準設定…アクションプランに定めたバス路線のタイプ別の仕分け・役割に応じ、バス路線の区間本数をサービス基準案としてアクションプランに掲載している。平成28年度から区間本数については精査に取り組んでいるが、平成29年度からの路線再編作業の中で、更に精査を行い、再編実施計画に具体的に定めていく。【バス事業者】	◎
	② 基幹的な路線の利便性改善	i) 基幹的な路線でのダイヤ改善(運行の等間隔化等)	
	③ 市民ニーズに対応した補完的な路線の見直し	i) 補完系統の輸送サービスの改善(運行の等間隔化等)	●
		ii) 交通不便地区対策の充実(住宅地等)アクションプランで超小型バスの具体的な導入検討を行うとした日宇地区について、バス事業としてどのような形で組み込めるか検討をすすめることとしている。【バス事業者】 iii) 交通不便地区対策の充実(郊外の過疎地域など需要の少ないエリアにおいて赤字バス路線からデマンドタクシーへの転換を推進)…補完路線タイプ3の中で具体的な需要の基準(1運行あたり5人以下、かつ通勤通学利用が少数等)を対象 ・浅子線は平成28年12月末で廃止し、先行して10月3日から小佐々・浅子地区にデマンドタクシーを運行。(エコタクシー) ・上三川内線は平成28年12月末で廃止し、先行して10月3日から三川内地区にデマンドタクシー運行。(OKタクシー) ・世知原温泉線は平成29年3月末で廃止し、平成25年8月から既に世知原地区にデマンドタクシー導入済みだが、廃線に伴い新バス停を2月から設置済み。(世知原タクシー) ・上宇戸線・潜木線が運行している柚木地区と、平成29年度中のデマンド転換に向けて平成28年12月から協議を開始。この地域は小学生の通学にも利用されることから、新たに「子供割引」を新設し、他の地域にもサービスを拡大。平成30年3月1日から予約制乗合タクシー「ほたる号」の運行を開始(ラッキー自動車)。1か月間の重複期間を経た後、上宇戸線・潜木線は3月末で廃止する予定。 ・上木場線については、平成30年度中に黒髪町全域を対象にデマンドタクシーへの転換を行う予定。平成30年1月より日宇地区との協議を開始。	◎
④ 交通結節点の強化とそれを軸としたネットワークの形成	i) 交通結節点の整備・形成(交通結節点となる早岐駅のネットワーク機能を高める)…以下の2つの視点から検討する。 ・田子の浦におけるバスの乗継利便性の向上や江上・針尾方面から早岐駅方面への便の確保の検討を行う。【西肥自動車】 ・早岐駅周辺のまちづくりの動向を踏まえながら長期的な観点にたって今後、バス路線の再編を行う。	● 長期	
(2) 複数モードの連携により公共交通ネットワーク全体の利便性を確保する	① 鉄道ーバス、鉄道ー鉄道の連携による利便性向上	i) 鉄道とバスの乗継や競合区間の利用者選択の拡大【西肥自動車と松浦鉄道】 ・西肥バス定期券利用者の一部対象者が松浦鉄道に半額で乗車可能となるサービスが平成28年10月より1年間の社会実験として開始。利用状況としては、バスの通学の定期利用者がMRを利用する場合もあると想定し、利用の対象となる高校の新入生に西肥自動車より広報を集中的に行ったが、ほとんど利用がなかったため、サービスは9月末で終了した。鉄道とバスの利用の棲み分けがなされていると理解する一方、連携サービスによる利用者拡大の難しさが再確認されたことから、他の方法を検討する必要がある。 ・佐々駅、佐々バスターミナルにおける鉄道とバスの世知原方面の連絡ダイヤの改善を平成29年4月の定例のバスのダイヤ改正時に実施予定であったが、3月に鉄道のダイヤ改正があることから、平成29年10月のバス定期ダイヤ改正時に調整を行った。	◎
		ii) 鉄道ー鉄道(JRとMR)の連携による利用促進①…観光列車の視点 平成30年に長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産登録を見据え、JR九州と松浦鉄道の相互利用を促すような方法の検討(例: 田平天主堂…JR: 特急みどり博多～佐世保、MR: レトロン号等佐世保～西田平)	
		iii) 鉄道ー鉄道(JRとMR)の連携による利用促進②…定期運行の視点 将来的に検討	
② 多様な交通モードとの連携	iv) 佐世保駅前における乗換・乗継利便性の向上…わかりやすいサイン表示等 バスの再編作業の中でバスから鉄道・航路、鉄道・航路からバスの乗換・乗継利便性についても検討を行う。 i) パークアンドライド施設や駐輪施設等の充実・活用 黒島集落の世界遺産登録を目指していることや、佐世保市の旧軍港が日本遺産に登録された(MRの佐世保市内の駅等が日本遺産の構成要素である)ことを踏まえ、黒島旅客船との連携策のひとつとして、松浦鉄道の相浦駅の駐車場に遊休スペースがあるため、その部分を黒島・高島観光客専用の臨時駐車場として提供予定。		

(3) 利便性を維持した持続可能なバス事業を実現する	① 需要と供給に見合ったサービスの適正化	i) 需要と供給に見合ったサービスの適正化	●
	② 競合区間の見直し	i) 中心市街地に乗り入れる各路線の見直しを通じた適正化	
		ii) 相浦方面の路線の見直し	
		iii) 黒髪・もみじが丘、大宮方面の路線の見直し	
		iv) その他路線の見直し	
③ 車両運行効率化のための車庫等の既存資源の利活用	i) 事業者間の営業所機能等の融通 ii) 新たな車両転回・乗務員交代等の拠点の設置…車両転回の場合として中心市街地（松浦町付近を想定）を1つの案として検討を行う。	長期	
④ 共通定期券・事業者間の乗継割引の導入	i) 共通定期券・事業者間の乗継割引の導入検討…ICカードシステムの一元管理化による導入を検討中。	●	
⑤ 労働力不足への対応、労働環境の改善	i) 労働力不足への対応、労働環境の改善		
(4) 公共交通の利用促進・需要創造を推進する	① 利用者・来訪者に対するわかりやすい情報提供の充実	i) 来訪者に対する情報提供の充実 転入者向けに支所管内別の公共交通案内情報を作成し、平成28年5月に各支所窓口を設置している。	
		ii) 地域住民・利用者等に対する情報提供・意識啓発の推進 本協議会主催で例年開催している「公共交通ふれあいフェスタ」を11月5日に開催した。バスMRの共通1日乗車券の販売や、バスや鉄道の営業所見学等の実施に加え、今年度は環境部のCO2排出削減事業の一環である「佐世保市COOL CHOICE宣言」の取り組みもあわせて行った。MR COOL CHOICE号の出発式や、西肥バス・市営バスのラッピングバスの運行等を行い、例年とは違うターゲットにも公共交通をアピールすることができた。	
		iii) 佐世保駅前における乗換・乗継利便性の向上（再掲）	
		iv) バスロケーションシステムの導入検討	
	② すべての人が移動しやすい環境整備	i) 低床車両の導入促進…（バス事業の経営シミュレーション作成時は導入促進費を想定） 平成29年度は西肥自動車13台及び交通局9台、両事業者合わせて22台のノンステップバスを導入した。これは計画より多い台数である。 ※バス運行体制一体化の調査における経営シミュレーション上の計画では今後、両事業者合わせて、毎年、11台～13台を継続して導入するものと想定している。実現すれば、市内乗合バスのノンステップバス導入率は現在の約22%から平成35年度には約60%となる予定。	
		ii) バス停の乗り降りしやすい環境の整備 平成28年6月30日に道路管理者・公安委員会・バス事業者・市で協議の場を設け、バス事業者から出された改善要望箇所について協議・情報共有を行った。進捗状況は下記のとおり。 ・バス停に設置されているガードパイプとバスの乗降口の位置調整について、今年度中にバス事業者から調整希望箇所の資料を提示する予定。	
③ 多様な交通モードとの連携	i) パークアンドライド施設や駐輪施設の充実・活用（再掲）推薦		
④ ICカードの機能拡大	i) ICカードの更新を踏まえた機能拡大の検討 佐世保市内のバス事業者及び松浦鉄道は平成31～32年度にかけてスイカ等の全国ICカードとの互換性のある「ニモカ」の導入に向けた準備をしていく方針を決定した。県内外での利用が可能となり、コンビニでの積み増しが可能となる等の利便性向上のほか、電子マネーやポイント活用により商店との連携サービスも期待される。		
⑤ 地域が連携した各種利用促進策の企画・開発	i) 鉄道駅や停留所等の有効活用 ・黒島集落の世界遺産登録に向け、窓口駅である相浦駅の改修工事について、佐世保市の平成29年度予算に500万円を予算化して改修を行った。その際、松浦鉄道及び駅への親しみを持っていただくために、相浦駅周辺の草刈りや雑木伐採、トイレ清掃や待合所のペンキ塗りなどを地域の方々と松浦鉄道が共同で行い、あわせて、駅構内通路に壁画とパネルを、待合所にベンチを地元の高校や大学から寄贈していただいた。	◎●	
	ii) 観光・商業施策等との連携 iii) 健康・福祉施策等との連携 ・公共交通ふれあいフェスタで共通一日乗車券購入者に対して配布する「佐世保市内ぶらり半日旅周遊モデルコース」の内容を長崎県立大学の学生が作成。「坂道のアポロン聖地巡礼コース」といった学生ならではの新しい視点のコースとなった。 ・中心市街地の飲食店を連携させた公共交通の利用促進プランについて、県立大学の学生に提案を依頼した。普段公共交通機関を利用することが少ない大学生をターゲットとしたバスや鉄道の利用を促進するプランの提案があり、事業化の可能性について検討することとなった。 ・子育て支援団体ママパパと西肥自動車の間で、ベビーカーでの安全な乗車について検討を行い、実際に検証を行った中で、ベビーカーを座席に固定するベルトの設置について導入することとなった。両者の最終調整がつき次第、4月下旬以降に順次導入していく予定。 ・国土交通省が5月に実施している「ベビーカー利用に関するキャンペーン」に市内バス事業者も参加しており、ベビーカー利用をしやすい環境づくりへの理解を求めるポスター掲示を行っている。		
⑥ ホスピタリティーの充実	i) 外国人来訪者等への対応…外国語標記の充実等 ・市営バスにおいて平成28年11月末から運賃表示器の液晶パネル化による案内表記の日本語・英語・中国語・韓国語対応を進めており、現在、すべての車両において変更が完了している。 ・平成29年度6月以降、MRの車内において、次駅案内表示に英字、韓国語、中国語を追加。順次整備を進めて行く。平成35年度完了予定。		